

平成25年度事務事業評価調書

整理番号	31	枝番	1
評価担当課	市立大学事務局総務課総務係		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	図書館・講堂整備事業			
総合計画の位置づけ	有 無	基本目標	5	心豊かな人と文化を育むまちづくり
		主要施策	5	大学教育の充実
		基本事業	2	大学を活かしたまちづくりの推進
		実施計画事業	1	図書館・講堂整備事業

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	①学生の学習支援の充実と学術情報基盤の確立のため、大学図書館の機能充実を推進する。 ②大学において蓄積された教育・研究の成果等を図書館活動を通じて地域に還元する。 ③図書館棟・講堂の整備		
対象(何を又は誰を)	学生及び市民		
手段＝活動(仕事) (どのような方法で)	①蔵書の充実 ②学習環境の充実 ③機能強化 ④市民利用の促進 ⑤市民との交流活動の推進 ⑥図書館棟・講堂の整備		
意図(どのような成果を期待しているか)	①学習支援環境の整備・充実 ②学術情報基盤の確立 ③大学図書館による地域連携		
事業実施主体	名寄市		
事業実施方法	直 営 一部委託 全部委託 補助等 請負 その他()		
事業実施期間	始期	19 年度	終期設定 (有) (終期 28 年度) ・ 無
根拠法令・条例等	大学設置基準、名寄市立大学学則、名寄市立大学短期大学部学則、名寄市立大学の組織及び管理に関する規則		

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

活動指標	指標名及び内容	単位		H22	H23	H24	H25見込	目標年度 (H26年度)
				目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	1 蔵書目標冊数	冊	目標	75,000	77,500	80,000	87,500	90,000
			実績	78,432	82,550	85,047	-	-
	2 貸出目標数	冊	目標	11,000	13,000	15,000	16,000	17,000
			実績	13,927	14,520	16,092	-	-
3			目標					
			実績				-	-
成果指標	1 市民目標利用人数	人	目標	150	150	150	200	200
			実績	122	261	190	-	-
	2 貸出者目標数	冊	目標	5,800	6,900	7,300	7,000	7,500
			実績	5,880	6,443	6,670	-	-

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H22決算	H23決算	H24決算	H25予算	平成24年度の事業費内訳	
事業費	28,369	28,515	34,415	48,763	嘱託職員(司書)報酬等	13,340千円
					図書購入	10,986千円
国道支出金					旅費	508千円
地方債					電子メディア・データベース等使用料	2,477千円
その他					図書館システム保守委託料	336千円
一般財源	28,369	28,515	34,415	48,763	図書館建設基本計画策定業務委託料	4,940千円
人件費	6,608	6,683	6,629	6,629	その他	1,828千円
平均給与額	6,608	6,683	6,629	6,629		
担当職員数	1.00	1.00	1.00	1.00		
総事業費	34,977	35,198	41,044	55,392		
対前年比(%)	-	101	117	135	コストの算出方法	
事業コスト	活動指標1	486	426	483	633	総事業費/蔵書数(円)
	活動指標2	2,740	2,424	2,551	3,462	総事業費/貸出数(円)
	活動指標3					

(3)事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	
改善点	指摘事項 有 () 無

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	a	名寄市が設置する自治体立の公立大学であり、在学生・教員に名寄市が直接責任を持って大学図書館の整備を実施すべきことは自明である。
有効性 目的を達成するための方法として有効か？	b	平成21年度(2009年度)に実施した「学生生活満足度調査」では図書館利用に関する質問をしており、蔵書の種類や量に関する質問において約58パーセントの学生が不十分との回答をしている。図書購入(蔵書充実)は、これら調査や看護師・保健師・管理栄養士・社会福祉士などの養成指定校として備えなければならない図書の整備のため継続しなければならない。現施設は狭隘のため閲覧席の不足や図書の収蔵が限界になっており、学生等の有効利用を阻害している。この課題の解決には新棟の整備を待たねばならない。
効率性 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	a	図書館の運営に係る経常経費は、学内の図書館運営委員会(各学科から選出された教員により構成)により、予算編成を行っている。図書購入に関する選書については、分野別の偏りが生じないよう教員や学生からの希望を考慮して必要な図書を選定している。
公平性 受益者負担は適正か、受益者に偏りがないか？	a	図書館運営に関する経常経費は、学生納付金(授業料・施設整備費・教育研究振興費・実験実習活動費)の一部を原資としており受益者負担は適切である。
達成度 活動指標、成果指標の達成度は？	b	①蔵書数の達成度 106.3パーセント ②貸出数の達成度 107.3パーセント ③市民利用の達成度126.7パーセント ④貸出者数達成度 91.4パーセント ※目的達成のための手段＝活動の「⑥図書館棟・講堂の整備」が後期計画事業に位置付けられているため、図書館棟の整備を以て達成度の評価が可能となる。

5 1次評価

評価結果	理由	
A	大学施設の本館と恵陵館の2か所にそれぞれ大学図書館本館と分館を設置しているが運営及び利用の面からも効率性・利便性に欠ける。これらの課題は新棟を整備することで解決が図られるものであり、運営事業による改善では限界がある。	
A:現状のまま継続	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	
B:進め方を改善		
C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)		

6 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	図書館の整備にあたっては、整備により学生と市民の交流が拡大することが望ましい。

7 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	計画のとおり事業を継続・推進